



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2025. 6. 25 号

文責 小森

思いやりと挑戦の初夏

梅雨空の下、校舎の緑が一段と濃く感じられる季節となりました。湿度の高い日々が続きますが、生徒は、心身ともに元気に学校生活を送っています。さて、6月は、本校にとっても節目の多い月となります。中学校総合体育大会、定期テスト、そして日々の授業や部活動と、さまざまな場面で生徒たちの真剣な姿が見られました。

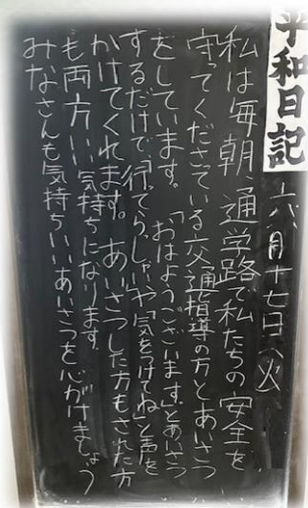
まず、中学校総合体育大会では、それぞれの競技に取り組む生徒たちの真摯な姿勢と、仲間を応援する熱い気持ちが校内外に感動を呼びました。記録や勝敗だけでなく、練習の過程で流した汗や、チームとしての協力・励まし合いといった「過程」の尊さが随所に表れていました。また、大会を終えての達成感と、次なる目標に向かう前向きな姿勢は、日常の学校生活にも好影響を与えています。

一方、学習面では定期テストが行われました。これまでの学びを振り返り、今の自分の理解度を確かめる良い機会となりました。テストに向けて「ほっとタイム」を活用し、放課後、教室で勉強する生徒の姿も多く見られ、「自分の力で課題に向き合う」という学習習慣が少しずつ根付きつつあると感じました。テストは結果だけではなく、準備の過程にこそ成長の芽があります。今回の反省をもとに、これからの学びにさらに磨きをかけてほしいと思います。

さて、先週、生徒たちの素晴らしい行動が地域の方からも称賛される出来事がありました。放課後の帰り道、体調を崩して倒れていた高齢の方を、8名の生徒たちが協力して助けたのです。顔色の悪い高齢者にいち早く気づいた彼らは、迷わず声をかけ、周囲の様子を冷静に判断し、生徒の一人が119番通報を行い、また別の生徒は学校に連絡。さらに自宅に戻って水を持ってきた生徒もあり、声をかけながら優しく介抱しました。その的確で温かい対応により、高齢者の方は無事救急搬送され、大事には至りませんでした。この出来事は、「困っている人を助ける」という善行の手本とも言えるものでした。体調の悪そうな人に声をかけるのは、決して簡単なことではありません。勇気と判断力、そして思いやりがあってこそできる行動です。日頃の学校生活の中で培ってきた協調性や思いやりの心が、このような場面で自然と発揮されたのだと思います。生徒たちの行動は、私たち教職員も深く胸を打たれました。

6月は、雨が続き気分も沈みがちな季節ですが、雨音の中にも静かな学びと成長があります。雨が植物にとっての恵みであるように、生徒たちにとってもこの時期は内面を育む貴重な時間です。仲間と切磋琢磨し、時に困難と向き合いながらも前向きに歩いていくその姿に、教職員一同、大きな励ましをもらっています。

7月からは本格的な夏に向けて、さらなる活動の機会が広がっていきます。熱中症等にも気をつけながら、心も体も健やかに、充実した学校生活を送ってほしいと願っています。



学校ホームページの「学校行事【学校生活】」でも活動の様子を公開しております。

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/yamazato-j>